

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

府中町立府中中央小学校 4教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	142	150	132	137	143	138	842	27	869
学級数	5	5	4	4	5	4	27	5	32

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：A)	A	専科	A	C	A	専科	専科	専科	A	A	A	A	A
5年2組 (担任：B)	B	B	B	専科	A	専科	B	専科	B	B	B	B	B
5年3組 (担任：C)	B	B	C	C	推進	専科	C	専科	C	C	C	C	C
5年4組 (担任：D)	D	D	D	E	推進	専科	D	専科	D	D	D	D	D
5年5組 (担任：E)	D	D	E	E	推進	専科	E	専科	E	E	E	E	E

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：F)	F	F	F	G	推進	専科	F	専科	F	F	F	F	H
6年2組 (担任：G)	F	F	G	G	推進	専科	G	専科	G	G	G	G	G
6年3組 (担任：H)	H	F	H	I	推進	専科	H	専科	H	H	H	H	H
6年4組 (担任：I)	H	F	I	I	推進	専科	I	専科	I	I	I	I	I

4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<効果のあった取組>

- ① 校内の全体研修や中堅教諭等資質向上研修等と絡めながら、児童にどのような力を付けるのか、児童のどんな姿を目指すのかを問い直すことで授業の質の向上を図った。
- ② 日常的に児童の様子を交流し、児童の背景やつまずき、困り感を探った。
- ③ 中学校区での研修や毎月実施している生徒指導連携の中で、小学校で付ける力や目指すふるまい、中学校でつきたい力等を交流した。
- ④ 日常的に複数での教材研究を行い、評価までを見通して取り組んだ。



<成果>

- ① 協働的な学びと個別最適な学びの一体化を目指し、話し合いのルールや仕組みを身に付けさせたり、自己選択・自己決定の場を保証したりしながら、授業の質の向上を図った。
12月実施の校内のアンケートにおいて、「授業中に「できた」「わかった」と感じる」児童が82%であった。
また、12月実施の標準学力調査において、6年算数以外の教科（5・6年国語・5年算数・5・6年理科）において全国平均を上回ることができた。
- ② 推進教員が5年・6年担任と細かく連携をとるとともに、生徒指導主事・特別支援C0・他の専科教諭・養護教諭や栄養教諭・学校相談員・スクールカウンセラー等とも児童の様子を常に交流することで、児童の背景や保護者の願いを共有することができ、児童の多面的理解につながった。
校内アンケートにおいて「学校には悩みや心配を相談できる先生がいる」児童が77%であった。
- ③ 中学校区での研修で9年を見通して付ける力について話し合うことができた。また、児童・生徒会議で話し合い、能登半島地震復興のためにメッセージ付きの土のう袋を作成したり、町の平和祈念式典に参列して中学生の誓いを聞いたり千羽鶴を奉納したりするなど、目指す姿を具体的に実感することができた。
- ④ 教材研究の教科数が減ること、複数での教材研究で役割分担ができること、常に評価までを見通していることで、効率的に業務に取り組むことができた。
また5・6年担任は週6～7時間、教材研究や個別指導等が行える時間が確保できるとともに、出張や年休取得の場合も、加配教員等との調整で常に児童とともに学びを進めることができた。学級閉鎖時もオンライン学習と組み合わせ、効率的に進めることができた。

＜課題＞

- ① 学力の定着・向上を図る。
- ② 児童のつまずきや困り感に寄り添い、具体的な手立てを探る。



＜対策＞

- ① 特に算数科の定着・向上に課題がある。
基礎の定着とともに、活用の力を付けるために、日常や生活の中での具体的な場面と結び付けて考え、表現する時間を増やす。単元計画の中に位置付ける。
- ② 登校を渋る児童や教室に入りにくい児童（個別ルーム）、また、校内アンケートで
 - ・分からないときに質問しにくい。
 - ・宿題の直し方が分からない。
 - ・担任ではないので話しにくい。
 - ・担任との時間が少ないのがさびしい。等と回答している児童について、学年会で共有するとともに特別支援学級担任や特別支援 CO と連携し、多くの目で児童のつまずきや困り感をそのままにしないように具体的な手立てや配慮について話し合う。